

# ∫ LIVE ∫



photo by Kei Obata

人を信じ、愛を信じ、言葉を信じ、ダンスを信じ、音楽を信じ、人生を肯定するピナ、ジャンに共通する生き方を表した彼のダンスは我々の心を必ずや暖かくしてくれるでしょう！ジャン・徹デュオは日本・ヨーロッパ・アジア・南米で公演・ワークショップを続けている現在たいへん乗っているデュオです。徹は瀬尾高志も参加しているベースアンサンブルとジャンの共演を企画。ところが、初ライブ直前に3・11東日本大震災。ジャンは香港まで来ていましたがやむなくヨーロッパにUターン。何とか参加したいジャンと私達はSkype共演を考案。ドイツからポレポレ坐の壁に映し出されたジャンと身も心も共演しました。余震の続く中、記憶に深く刻まれた初共演でした。その後、ベースアンサンブルと実際の共演もすでに3回、ベースアンサンブルはこの経験を忘れないように「弦311」を名前に付け加えました。ジャンはベースアンサンブル弦311を高く評価、とりわけ高志の澆刺とした姿勢に好感を持ちました。東京都美術館での絵画（小林裕児・浸水の森）を前にしたパフォーマンスではジャン・上村なおか・徹・高志のカルテットでした。日本・日本文化を愛し、毎年必ず一回は来日するジャンさんの北海道公演がこのたび初めて実現します。是非ご参加下さい。

ジャン・ローレン・サスポータス(ダンス) <http://www.jsasportes.com/>

カサブランカ生まれ。マルセイユで数学・物理・哲学を学ぶ。'75年パリでモダンダンスを始め、'79年ピナ・バウシュ舞踊団のソロ・ダンサーとなる。世界中の劇場で踊り続け、ピナの代表作「カフェ・ミュラー」は以来30年間300回を超える。ペドロ・アルモドバル監督「トクトゥーハー」(アカデミー脚本賞)の冒頭で使われ、「世界で一番哀しい顔の男」と評される。現在は自らのダンスグループ「カフェ・アダダンスシアター」を結成、俳優、オペラ演出、振付家、ワークショップなどで活躍している。合気道から派生した「気の道」をマスター。日本文化全般に造詣が深い。

齋藤徹(コントラバス) <http://travessiaart.com/>

ダンス、舞踏、演劇、美術、映像、詩、書、邦楽、雅楽、能楽、西洋クラシック音楽、現代音楽、アストルピアソラなどタンゴ、ジャズ、即興音楽、韓国やアジアのシャーマニズムと深く関わってきている。アジアとヨーロッパを繋ぐ「ユーラシアン・エコーズ」や「オンパク・ヒタム」(もう一つの黒潮)などシリーズも展開。1994年から頻りにヨーロッパに行き、ミッシェル・ドネガ、パウル・フィリップスらと演奏を展開している。アヴィニオン、リッチモンド、ハワイでのコントラバス祭に招待されワークショップや演奏を行う。2007年個人レーベル「トラヴェシア」を創設。

瀬尾高志(コントラバス)

JAZZ、即興を核に札幌、東京を中心に全国でライブ活動をしている。高校時代、コントラバスを藤澤光雄氏に師事。札幌にてコントラバス集団『漢達の低弦』を主宰。2006年、横浜ジャズブロードコンペティションでグランプリと横浜市民賞を受賞。(石田幹雄トリオ) 今までにキューバ、アメリカ合衆国、シンガポール、ブラジル、韓国等で演奏。板橋文夫(pf)、林栄一(sax)、高岡大祐(tuba)、喜多直毅(vn)、寺田町(vo)、酒井俊(vo)等、共演者多数。



2013年2月7日(木)@レッドベリースタジオ

◆札幌市西区八軒2条西1丁目 札幌琴似教会裏 <http://www.akai-mi.com/>

◆開場19:00 / 開演19:30

◆予約・前売り3,000円(当日3,500円) 学生2,000円(ワークショップと合わせた2日間通し券:5000円)

◆予約・お問い合わせ:011-633-2535 (レッドベリースタジオ)

◆企画・協力:レッドベリースタジオ ◆共催:アトリエ憧憬 奥井理ギャラリー